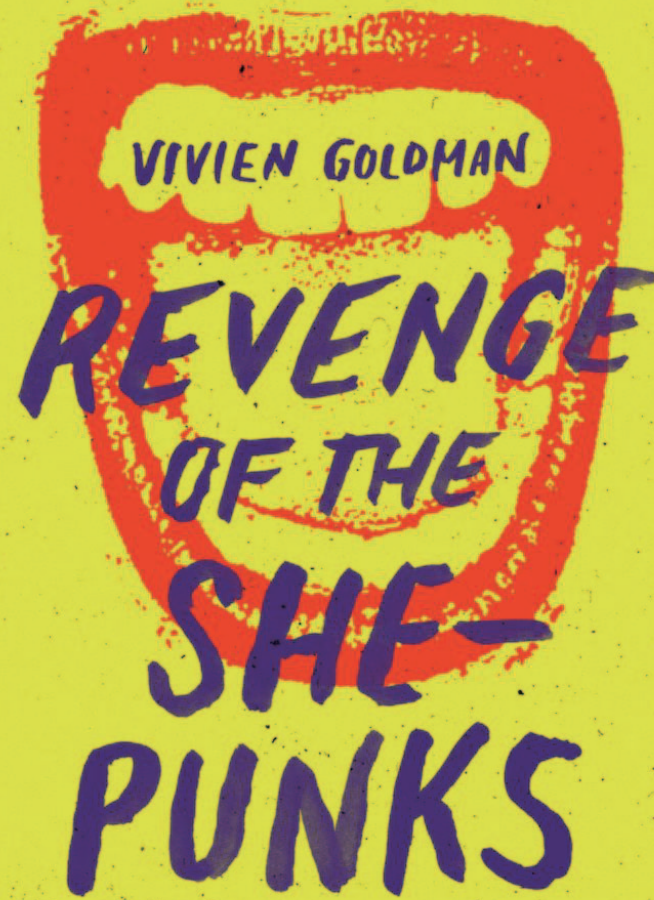


話題の書、ヴィヴィエン・ゴールドマン『女パンクの逆襲 フェミニスト音楽史』の訳者、野中モモ を招いて考える。

共通教養科目「現代の編集と出版」(野々村文宏担当) ジェンダーフォーラム連携授業

ロック、ポップ、ラップ、音楽とジェンダー



*A Feminist Music History
from Poly Styrene to Pussy Riot*

2022年7月11日(月) 5限 J401

履修登録者以外の聴講希望者は以下のQRコードから
グーグル・フォームで申し込みをしてください。



ヴィヴィエン・ゴールドマン『女パンクの逆襲 フェミニスト音楽史』(2021 Pヴァイン)。原著は“Revenge of the She-Punks” (2019 テキサス大学出版局)。

著者紹介 ヴィヴィエン・ゴールドマン (Vivien Goldman)
ウォリック大学卒。英アイランド・レコードでボブ・マーレイの広報などを務めた後、
ニュー・ミュージカル・エクスプレス紙、サウンズ紙などに 40 年以上ものあいだ寄
稿し続ける女性音楽ライター。現在、ニューヨーク大学とラトガーズ大学の兼任教授
(adjunct professor) も務める。

訳者紹介 野中モモ
立教大学社会学部卒。ロンドン大学ゴールドスミス校修士課程修了。訳書にロクサーヌ・
ゲイ『バッド・フェミニズム』(2017 垂紀書房) など多数。自ら、小部数出版物
(zine) を扱うサイトを主宰する。